

年末に、ちょっといい話（何かいいなあと思った話）を紹介します

人が亡くなってから行くと言われる、極楽と地獄について、こんな話があります。

極楽と地獄も、食事の時間になりました。どちらも同じ食器と箸で同じ物を食べます。ただ、この箸はとても変わっていて、ものすごく長いのだそうです。腕の長さよりも長いので、食べ物を挟むことはできますが、長すぎて、自分の口に食べ物をうまく運べません。地獄の人たちは、お腹が空いているのに食べられなくてイライラ。そのうちにけんかが始まってしまいました。ところが、極楽の人たちは、いつでもお腹がいっぱい。みな満足です。

いったい何が違っていたのでしょうか。実は、極楽の人たちは食べ物を箸で挟むと、自分で食べずに向かい側の人に食べさせてあげていたのです。そうすると、向かい側の人自分が自分に食べさせてくれます。自分のことより相手のことを先にすると…、というお話。

大阪の中学校で陸上部の指導をされていた原田隆史先生という方がいました。指導してきた陸上部の生徒の中に、家庭の事情で高校に進学せずに就職して働かなくてはならない生徒がいました。原田先生は、何とか就職させてあげたいと考え、あることをしたそうです。何だと思いませんか。

ひたすら、「はい」という返事だけを練習させたそうです。1000回もです。

そして、原田先生は就職の面接にも同行し、面接担当の方に「はじめに生徒の名前を呼んでほしい」とお願いしたそうです。名前を呼ばれると、その生徒は胸のすくような素晴らしい返事をしました。その返事を聞いて、担当の方たちは非常に感心し、その生徒を採用しました。

返事ひとつがその人の人生を変えることがあるくらい、返事や挨拶は…、というお話。

明治時代、大石順教さんという女性のお坊様がいました。若くして両腕をなくしてしまったのですが、口を使って文字や絵をかき、素晴らしい作品を残しました。

この大石さんの身の回りのお世話をしていたのが西野悦子さんという方です。この方も片方の足の膝が曲がりませんでした。

西野さんは、いつも足が悪いことを隠すように歩いていたのですが、ある時、大石さんの前で転んでしまったそうです。大石さんは言いました。「悪い足を隠さないで歩いてごらんなさい。そうすればきっと転ばなくてすみますよ」。

自分の欠点にこだわり過ぎず、それを隠さない方が実は自分にとって良いのでは…、というお話。

ちょっと連絡（学校からのお願いです。よろしく申し上げます）

【連絡1】 12月29日から1月3日まで年末年始休業（閉庁日）で、職員は不在となります。この間は学校に連絡しても対応することができませんので、緊急な場合は「石川教頭」まで連絡くださいますようお願いいたします。連絡方法については、メールと石川小HPでお伝えしたとおりです。

【連絡2】 例年、体育館で「新春書き初め大会」を実施していましたが、子どもたちの体調管理（インフルエンザ等を流行させない）の観点から体育館では実施せず、教室などで行うことにします。ご了承ください。なお、例年通り、子どもの書き初め作品は展示します。詳細は追って連絡いたします。

【連絡3】 冬季間、自転車は乗れなくなります。しかし自転車以外の乗り物が心配です。足でキックして走るローラーブレードなどがその代表です。特にこういったものは公道では乗れません。冬、除雪された山にのぼらないこと、雪玉を車や人や家などにぶつけないことも指導願います。

【連絡4】 車での送迎についての再度のお願いです。登下校時（朝・帰りの時刻）、五十嵐小児科さん側からの進入は控えてください。冬季間は道幅も狭くなります。また、路上での乗り降りも、滑って危険です。学校の体育館前の駐車場でお願いします。ご家族の皆さんにも必ずお伝えください。